



## 私の趣味《1》

# 「清く正しく美しく」の宝塚!!

清 佳浩 (帝京大学医学部附属溝口病院：川崎市)

兵庫県宝塚市に創立95年を迎えた宝塚歌劇団があります。阪急電鉄の祖、小林一三氏の発案により、宝塚温泉の娯楽の一つとして宝塚唱歌隊が発足したのが大正2年7月でした。以後、昭和14年に宝塚音楽学校と宝塚歌劇団とに分離されましたが、宝塚歌劇団の団員は全て宝塚音楽学校の卒業生であり、宝塚音楽学校は、宝塚歌劇の舞台に立つ為に、どうしても通過しなくてはならない青春の門であります。

私が初めて宝塚のことを身近に知ったのは、阪神大震災の翌年、1996年5月の神戸大学皮膚科勉強会に講師として招かれた時のことでした。講演会終了後にお店に入ったのですが、そこは元タカラジェンヌが経営している店で、ママさんがとてもきれいだと思ったことです。そんな話を家でしたら、妻は宝塚が好きで何度か東京で観劇していたことを知りました。また娘は小さい時からピアノやバレエを習っていて、バレエの発表会に元タカラジェンヌが参加したことがあるなど宝塚とは縁があると感じました。1997年5月に妻と娘が宝塚大劇場公演を、翌日には3人で宝塚バウホール公演を観劇しました。宝塚の駅を降りて花の道という劇場へ続く道を歩いていくと、オレンジ色の屋根を特徴とする建物が見えてきました。山、川、空がとてもきれいな街だという印象でした。写真は宝塚大劇場を武庫川から写したところです。2000年、宝塚大劇場に一家で観劇に行った3年後、うちの娘が宝塚音楽学校を受験しま

した。ちょうど田園調布雙葉中学卒業のときで、親としてはどうせ合格するはずはないと思い、だめだったらきっぱりとあきらめて医学部でも目指して勉強しなさいなどと言って送り出したのをよく覚えています。ところがなんと、1次試験に受かり、宝塚で行われた2次試験にも合格してしまいました。

そこで音楽学校について述べてみましょう。音楽学校生活は、2年間です。1年生は予科、2年生は本科と呼ばれ、宝塚の華やかな舞台を支える力となるために必要な声楽、器楽、日舞、バレエ、演劇などの芸能の基本は勿論、舞台人としての心得もきちんと学ぶのです。宝塚市に近いところに住む生徒は自宅から通学できますが、それ以外の生徒は寮生活をします。朝から晩まで、一緒に生活することで強い連帯感が生まれます。音楽学校では「清く、正しく、美しく」の校訓に基づいて、礼儀作法やマナー、上下関係も厳しく指導され、一人の女性として、社会人としての教養を高めるのにも大いに役立ちます。音楽学校の2年間には、社会奉仕活動の5月のすみれ売り、秋の音楽会、洋舞祭、2月の文化祭などの舞台発表、席次を決める前、後期試験など、行事がびっしり詰まっており、あっという間に2年間は終わります。本科の時にはタカラジェンヌとしての芸名を夏休み中に考えて提出します。また、舞台化粧講習会なども開かれタカラジェンヌに一步一步近づいていきます。

2月には文化祭という名の卒業公演が行われ、3月1日には卒業式と同時に入団式があります。宝塚音楽学校を卒業して歌劇団に入団した時に研究科1年に編入され、翌年は研究科2年生となります。これを略して「研1」「研2」…と呼びます。

### 宝塚歌劇団

1995年1月17日阪神・淡路大震災により、宝塚歌劇のホームステージ宝塚大劇場は、一時閉鎖されましたがその後再開して、1996年にはウィーンの



ミュージカル「エリザベート」が公演されて大ヒット、1998年には65年振りの新しい組・宙組が誕生しました。2001年には、新装された東京宝塚劇場がオープンしました。世界中でも役者が女性だけで編成された劇団は宝塚歌劇団だけ。男性の役も女性だからこそ、格好良く、キザに演じることができ、女性を魅了することができるのです。つまり女性の気持ちが一番知っている役を女性が演じる。それがあらゆる女性をとりこにする、あの華やかで麗しい世界を生み出していると言えるでしょう。

娘の聖花まいは2002年花組に配属されて初めての演目が「エリザベート」でした。男役10年といわれ、立派なスターさんになるには長い経験が必要とされます。残念ですが娘は身長が160cmほどで男役にはなれません。そこで、娘役を演じています。これまでに12回の大劇場公演と10回の小劇場公演に参加してきました。宝塚大劇場と東京宝塚劇場はともに客席数が2,000以上ある大きな劇場です。宝塚の舞台を観劇して印象深いことは、場面が変わるのがすごく早いことと生オーケストラ、大階段や銀橋、盆といった舞台装置が立派なことでしょうか。写真は聖花まいと、当時専科だった樹理咲穂さんが

大階段に並んだところの写真です。歌劇団は大劇場公演のほかにバウホールや梅田芸術劇場、日本青年館、全国ツアー、中日劇場、博多座などの地方公演も行います。それぞれ、内容や雰囲気が違う公演なので楽しめます。娘は2008年11月には梅田芸術劇場と日本青年館で蒲田行進曲の宝塚バージョン、「銀ちゃんの恋」という公演に参加しました。それまでもあったのですが、聖花まいは公演の中で女医の役を演じました。やはり、親の仕事内容が影響するのでしょうか？

宝塚歌劇観劇の楽しみ方は人それぞれですが、やはり私は親として観劇しますので、聖花まいの立ち位置、衣装、表情だけを追いかけていつも観劇時間が終わります。女医の役を見た後は、思わずニヤニヤしてしまいます。皆様も是非一度、いや、何度も宝塚歌劇をご観劇ください。目の前に、今まで見たことがない美しい世界が広がって、心が楽しくなること請け合いです。また、その際に舞台に知り合いがいるとまた違った世界が見えてきます。観劇をご希望の方は御連絡ください。夢の世界へご案内いたします！



## 私の趣味《2》

# 絶滅危惧種と私

原 尚道 (原皮膚科医院：鎌倉市)

始まりは昭和56年、我が家にやってきたいすゞ自動車製のピアッツァです。ジウジアーロによる流れるようなイタリアンデザインとは不釣り合いな、荒々しいG200型2リッターDOHCエンジンがその心臓部に納まっていた。全開加速時の車内に響き渡るそのエンジンサウンドはまさしく「咆哮」です。当時小学6年生であった私は、助手席でその官能的な音に包まれるたびに全身に鳥肌が立つのを感じていました。いけないものを知ってしまったのです。この車との出会いが現在まで続く興味の原点です。

いくら好きとはいえ運転できる年齢ではありません。小学生から自動車専門誌を読み始め、新車解説、試乗記、ロードテストから新車価格表までじっくりと読み込みながら、想像と空想と妄想の世界に浸るだけの毎日です。やがて自動車を使った競技、モータースポーツにも興味を持つようになります。自動車専門誌、モータースポーツ専門誌など月に5-6冊の雑誌を購読し、こづかいは書籍代で全て消えました。中学・高校時代に自動車に興味を持つ友人は見つからず、だれにも理解されない孤独な趣味となりました。

進学した大学は相模原の田舎にありました。公共交通機関での通学が不便なことから、病院実習で多忙となる5年、6年生用には専用駐車場があり、車通学が公認されます。大学の周囲は畑と空き地だらけ、駐車場所には困りません。医学部生の多くは非公認の車通学をしていましたがお咎めなし。車好きには夢のような大学です。

私の淡い期待を警戒したのか、父から入学早々車通学禁止令が出されました。1年生の秋から一人暮らしを始めましたが、通学は当然自転車です。平成元年、2年生進学を前にアパートを変わり諸々の出来事が重なった結果、幸運にも4年落ち中古のホンダ・バラードスポーツCR-Xを買い与えられました。留年したら取り上げられるという条件です。その時、思わずポロッと出てしまった父の言葉を聞き逃しませんで

した。「成績が10番以内なら新車を買ってやる」。

全長3.6mほどの、ほぼ2人乗り、1.5リッターの5速マニュアルミッション車、パワーステアリングがない、ハンドルが驚くほど重たい原始的な車です。運転は楽ではありませんが、車との一体感を感じながら操る喜びにあふれていました。中学1年生の時、発売されたばかりのこの車を横浜のホンダディーラーまで見に行った思い出の車です。夢にみていた車との生活です。取り上げられてはたまりません。休日には箱根の山道によく出かけましたが、真面目に勉強にも励みました。おかげで翌年には新車のホンダ・インテグラがやってきたのです。これも1つの親孝行。

インテグラの価値はエンジンにあり。なんと8,000回転まで回る高回転型のB16型1.6リッターDOHCエンジンは、記憶に残るピアッツァをも上回る荒々しいサウンドを奏でます。緊張感を高めるバイブレーションと共にレッドゾーンまで一気に上り詰めるその様はまるでレーシングカー。この粗野にして豪快なエンジンの魅力を感じ取るにはマニュアルミッションでなくてはなりません。8,000回転まで引っ張ってクラッチを切り、ギアをシフトしてショックを最小限にクラッチをつなぐような運転は、そう頻繁にするわけではありません。が、緊迫感と高揚感に包まれる瞬間は、この車でなくては得られない貴重なひと時であり喜びでした。

興味のある車は山ほどありましたが、予算の上限は厳格に決められていました。どの車を選ぶのか、インターネットはまだ普及していない時代でしたので、あらゆる雑誌メディアを駆使して情報を集めました。車種選定から値引き交渉まで検討と努力を重ね、予算内で最善の選択をしたと思っていました。しかし、私の心を捉えて放さない、なんとも困った車が発売されたのです。

平成元年5月に発表、8月から発売された日産・スカイラインGT-Rは普通のスカイラインとは違う、

特別な存在でした。ツーリングカーレースに勝つために日産が持てる技術を全て注ぎ込んだレーシングカーのベースモデルともいべき存在です。レースに勝つために、規則で改造できない部分はあらかじめ市販車の状態で装備しています。外観も、メカニズムも全て「レースに勝つ」という純粋な志のもとに作られた車です。当時ツーリングカーレースで速いのはヨーロッパのメーカーばかりでしたが、圧倒的な速さで常勝ヨーロッパ勢を駆逐し、ツーリングカーレースでの王者として君臨しました。市販車も含めて日本車より輸入車の方が優れているという風潮があった時代です。ヨーロッパ勢に対抗すべく日産から放たれたこの強烈なパンチに私は溜飲が下がり、日本車の鑑、ツーリングカーの神様というべきこの車と共に暮らしたいと強く願うようになりました。しかし高い壁が立ちはだかります。レースでの使用を前提とした過剰な装備や品質を備えたためか、桁違いに高価な日本車となっていたのです。普通のスカイラインのざっと2倍、445万円也（後に454万円に値上げ）。当時父は330万円のグロリアに乗っていましたので、学生の身分で「これがほしい」と言えるはずもありません。私の熱い思いはひとまず心の奥底に封印です。

日本車のモデルチェンジは4年毎に行われていましたので、平成5年にスカイラインは新型に切り替わる予定でした。新型GT-Rは開発遅れのためずれ込むようでしたが、レースとは無関係となってしまった新型に興味はありません。レースに勝つために作られた、現行型の純粋な開発思想に惹かれたのです。なんとしても現行型を手に入れたい、しかし生産は平成6年で終わってしまいます。残された時間は長くありませんが、学生の身分では先立つものもありません。働き始めてから中古車を探すという選択肢もありますが、大人気のGT-Rは中古も高価。研修医の薄給では不安が残ります。中古には改造車も多く、私の希望である完全オリジナルな状態の車を探すのは大変そうです。

やはり買ってもらうしかありません。学生には分不相応な贅沢品ですので、ただ「買ってください」では門前払いは必至。いかに気持ちよく買ってもらうか、ダメと言われない状況を作るのかを、父の立場になって考えました。学生が精進できることは勉学のみ。平成6年3月の大学卒業に焦点を合わせ、



機能に宿る美しさ、この後ろ姿にシビれます

ひたすら勉強とにかく勉強。努力が報われたのか、首席卒業の報告に合わせた私の「お願い」は見事認められ、5年間の想いが成就したのです。平成6年4月、生産終了まであと半年と迫った春にGT-Rはやってきました。

重く踏み応えのあるクラッチや、ズッシリ手応え十分のハンドル、アイドリングの時から小刻みに伝わるバイブレーション、2.6リッターツインターボエンジンの暴力的なまでの加速、想像以上のものすごい機械でした。研修医時代は土日の出勤は当たり前でしたので、車に乗れるのは片道20分程度の通勤のみです。体をガッチリと固定してくれるバケットシートに身を沈め、リズムカルにギアシフトを繰り返しているとこの車の素晴らしさを楽しみ感じましたものでした。同時に、この車は語りかけてくるのです。「もっとアクセルを踏め！」ゆっくり走ってもそれなりに楽しいですが、ひとたびアクセルを開けると禁断の世界が開けます。免許証や命がいくつあっても足りなくなるのは分かっていますから、運転には強い理性が求められました。

留学中の2年間以外はほぼ毎日通勤に使い、貴重な気分転換のひと時になっていました。気の休まらない野蛮な車ですから、余計な考え事などしてられません。全神経を運転に集中し車と対話することが求められたのです。現在まで15年の付き合いになりますが、平成14年に開業してからは通勤時間がなくなり運転する機会が激減しました。休日は家族用の車（嫁さんも運転するのでオートマチック車）を運転しますが、何か物足りない感覚がぬぐえません。

マニュアルミッション車が減っています。発売される新型車はオートマチックのみということも多

く、マニュアル車に乗りたくても選択肢が狭められています。車は人に操る喜びをもたらす機械です。2つの足で3つのペダルを踏み分けて、両手を使ってハンドルやシフトレバーを操作する、ちょっとした難しさに運転の楽しみや奥深さが隠れていると思うのです。そう遠くない将来、ガソリン車は電気自動車に変わるでしょう。モーターにギアは不要ですからその時にマニュアル車は完全になくなります。消え行く運命のマニュアル車をいとおしみつつ、手に入れることができるうちに1台でも多くのギアシフトを堪能したいと願っています。こんなことに喜びを見出す私自体が絶滅危惧種？



次期スネかじり候補、まだ車に興味はありません



## 私の趣味 《3》

# 最近夢中になった事

日下部芳志 (日下部皮膚科医院：小田原市)

「趣味は何ですか？」と聞かれたら、真先に出る言葉はおそらく「中国の陶磁器（骨董）収集」だと思ふ。この趣味は自分流に言えば「皮膚科医にぴったり」と言える。それは、観て触って判断するからだが、かれこれ20年近く続いている。さらに、今年還暦を迎える身としては、45年来の素潜り（最近さすがに回数は減った）や、スキューバ。旅行やゴルフも趣味と言えは趣味か。これらは特に構えなくとも、好きだから自然と続いていて生活の一部？になっている。好きと言えは、語学も非常に好きで、チョコチョコやっている。語学と言うより人が好きなのかも知れない。その中の幾つが、物になっているかはさて置き（御気付きでしょうが、この通り日本語もあやしい）。昔やった楽しかった事は乗馬（カウボーイ乗り）やトランペット、陸上競技とか管弦楽、兎に角何でも興味が湧くとすぐ飛びついていたのかも知れない。

さて、前置きはこれで、最近と言っても去年の6月頃からだだが、特に夢中になり出した事が、「合唱」である。丁度結成されたばかりの、小田原医師会合唱団に誘われ、おそろおそろ第1回練習日に参加した。多数の参加があるかと思いきや、男性はなんと

3人（会員は8人程いたが当日参加者は都合によりこれだけ）。これでは様子を見て、場合によっては戦線離脱をと思っていた目論見はその場で瓦解した。気が付くと、もう必死に楽譜を読んで、声を出していた。

指導者が良かった。指揮者：ご近所の内科医の御奥様で声楽科卒業。ピアノ伴奏：この方がまた優しく、どんな曲でも魔法の様に弾き熟してしまうプロフェッショナル。仲間：こんなに優しい集団には最近会った事が無いと思うくらいである。最高であった。こうなると能力の有無（注：無いのは小生のみです）はともかく、私は、ひたすら出席率でカバー



小田原合唱祭にて



リラックスタイムの練習風景（フラダンスの中で）

し、その存続に協力せざるを得なくなった。不思議な事に生来能天気な私は大変楽しくなって来た。もう1カ月に2度の練習日が待ち遠しくて、なぜコンナニ楽しいのか、自問してみた。今の所の結論は、「皆」で協力して一つの歌を完成させる「達成感」を味わえるから、かもしれないと思っている。声と言うのは本当に不思議で、出る時は驚くほど出るのに、一度萎縮するとがっかりするほど出ない。もとより素人。しかし、団長（外科の院長）は生来の音楽家で次々と（無謀と思える程に）発表の場を計画し、実行に移していった。我々はひたすら付いて行くのみであった。団員は約25名。女性の方が多い。練習の合間には、決まってスイーツ等が何処からともなく出てくる。これがまた甘党の私にはピツタ

り。早速結成記念コンサートが6月21日（土）に市民会館小ホールで行われ、『アヴェ・ヴェルム・コルプス』や『千の風になって』他の曲を歌った。

これが手前味噌になるが受けた。その後の合唱祭、医師会忘年会とあつと言う間に過ぎていった。暮れの忘年会頃になると不思議にリラックスして歌えるようになり、声も比較的出るようになって来た。

其の後、合唱団の忘年会で小生の本当の理由がハッキリして来た。そう「歌を歌う事が好きなのだ」と。いたって簡単な理由だったが、考えてみるまでもなく、趣味とは元来好きだから続くので、そこに同興の仲間が集えれば、それで皆最高に幸せになれる。つい最近の神皮の会などでも、知らずに鼻歌など出てしまう始末である。

今年に入ってから、8月のコンサートへ向けて、『ラシーヌ讃歌』等の練習を始めている。フランス語の発音をカナで歌ってしまうので、もう少しだけフランス語っぽく歌いたいと、これからの精進が続く。自分なりにキチンと歌えた時の達成感と、練習の合間の差し入れ時の、ほのぼのとした幸せな時間を味わいながら、しばらくは、この僕の新しい趣味は続きそうな予感がする。

やっと思いついて来た今日この頃、『ラシーヌ讃歌』を口ずさみながら、真鶴にて。

## 私の趣味《4》

### ご当地キティ

桐野実緒（横浜市立大学附属病院：横浜市金沢区）

皮膚科医になって最初にご指導頂いた川口先生からのご指名ですので、恐縮ですが私の趣味（と言っても良いのでしょうか……？）をご紹介します。

それは、ハローキティグッズを集めることです。ただし、部屋を埋め尽くすほど収集する、いわゆる「キティラー」ではなく、地域限定のご当地キティもしくはノベルティが中心です。

きっかけは、今から10年ほど前の岐阜で過ごしていた学生時代、休みの間に横浜中華街でキティ付

きボールペンを買ったことでした。まだ今のご当地キティとは少し違い、チャイナ服を着たキティの下に中国語でキティを意味する「凱帯猫」の文字が書かれていました。中学・高校を過ごした横浜へ帰る希望を抱きつつ、小児科の実習中には子供に奪われそうになったこともありましたが、肌身離さず持ち歩いていました。

その頃から少しずつ、地域限定のご当地キティが全国に登場しました。ちょうどまだ学生で自由な時



集めたキティグッズ（他にもまだまだあります）



沖縄で見つけた大きなシーサーキティ

間が多く、旅行が好きだったため、その都度集めるようになりました。

最初は主要な観光地にわずかな種類しかなかったようですが、次第に増えて今では数えきれないほどの種類になっています。しかも、キティは同じ土地でも徐々に進化して、表情や持ち物、形がどんどん複雑になってきています。その土地の名物を持っているだけだったキティが、偉人、武将、お姫様などの人や動物だけでなく、食べ物、乗り物、名所などそのものになりきっているのが、またかわいく思えてしまうのです。さらに最近キティは観光地だけに限らずあらゆる所で登場し、私の出身地である町田にすらご当地キティがあることには驚きました。ちなみに町田リス園とぼたん園という地元の人しかわからないようなところがモチーフとなっています。

今では家に大量のキティが集まっていますが、どれを見てもその時々思い出がよみがえってきます。また、携帯電話などにたくさんのキティをつけ

て歩いているため、少しずつお土産に頂く機会も増えました。夫に最初にもらったキティは、思い返すと「桜島大根キティ」でした。皮膚科医になっただけでなく、川口先生からはある患者さん（おばあちゃんです）の服装に似ていると言われたのがそのキティです……。そんな川口先生にもその後各地からキティを連れてきて頂きました。おもしろいキティをつけているといろいろな方と会話が弾み、コミュニケーションのきっかけとしても貴重な存在だと思います。

いつか娘ができればサンリオのお店でキティグッズと一緒に探るのが夢ですが、1月に息子が生まれたばかりで、当面実現しそうにありません。自分だけでこっそり楽しむことにします。キティちゃんにはダニエル君という彼もいますので、男の子にはそれなら許されるかな、と考えたりしています。

今は国内旅行にもなかなか行けないのですが、夏には、先にNIHに留学に行った夫のもとに渡米予定です。アメリカでもキティは人気があるので、さらに新しい仲間を増やせそうです。

皆様もよろしければ旅先でキティに目を留めてみてください、新たな発見があるかもしれません。



息子、キティとこっそり撮った1枚